

パソコンによるリモートセンシングデータ処理・普及研究会

会長 杉村俊郎

幹事 羽柴秀樹

1. 研究会の概要

本研究会は、当初学会主催の「パーソナルコンピュータによるリモートセンシングデータ解析講習会」(昭和63年から平成4年まで6回開催)の講師陣が中心となり、パソコンを使ってリモートセンシングを普及するために設立された。データ解析講習会は、引き続き本研究会主催で「パソコンによるRSデータ処理セミナー」として5回(平成6年～10年まで)開催された。

その後本研究会はリモートセンシングの底辺が広がるように、教育の場での活用がスムーズに行われるような体制づくりに努めてきた。具体的には教材の作成および作成した教材を使ったセミナーの開催等である

2. 最近の活動実績

教育現場で活用できるような体制が整うように以下の内容を含んだ教材(CD-ROM)を作成した。

簡単な解説、複数テーマの解析事例、試験版データ、解析ソフトウェア、取り扱い説明

現在、ALOS データを教材に取り込むべく作業中である。その内容は次のとおりである。

・ALOS データを使った衛星画像の解析入門

主として ALOS/AVNIR-2 と PRISM データを対象に、データの取り込み、画像表示のテクニック、情報抽出の手法、解析結果の応用等の基本を理解しやすい様な処理の流れを構築している。操作は従来よりパソコン実習に使用している解析ソフトウェア Remote-10*を使用し、ALOS 用にいくつかのメニューを修正、追加する。

*<http://www.restec.or.jp/research/rssj/remo10w.exe>

・都市に分布する緑域分布の把握

都市自然公園内の樹林を対象に ALOS/AVNIR-2 および PRISM によって観測された画像を判読し、樹木の特性調査を行う。

・植生の活力度調査

三宅島噴火に伴い、噴煙の影響を受けた房総半島の森林地域にて、その後の植物の活性度を調査する。

・合成開口レーダーによる海上風速推定

洋上風力資源評価のため ALOS 搭載合成開口レーダー-PALSAR を利用して沿岸域の海上風速を推定し検証する。

・氷河の観察

近年地球温暖化の影響から氷河の後退が各地で報告されている。ヒマラヤ周辺の AVNIR-2 画像から氷河と氷河湖の現況を調査する

・防災地形の判読

防災地形として、沖積平野、地すべり地、断層、等々を判読する。

3. 連絡先

研究会幹事 羽柴秀樹

〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14

日本大学理工学部土木工学科

Tel: 03-3259-0669

E-mail: hashiba3@civil.cst.nihon-u.ac.jp